

地域密着型サービス評価の自己評価票

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

↓ 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		<p>施設の中であっても、生活の場は自宅であるように、地域の中で生活していけるように支援していきたい。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		<p>生き生きとした生活を送っていただけるよう利用者の趣味や好きなことを取り入れ、笑顔が一層見られるケアに取り組んでいきたい。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		<p>開かれた施設を目指し、面会の家族だけでなく地域の人々にも気軽に立ち寄っていただけるよう地域の集まりに積極的に参加し、理念の浸透に努めていきたい。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		<p>近隣に家が多く建ったため、イベントを行い参加を呼びかけ日頃の付き合いができるような機会を持ちたいと思っている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		<p>区長に自治会、老人会、婦人会、子供会など地域の集まりに参加させてほしいと申し出ており、区長からも「知らせます、参加してください。」と返答が返っている。</p>

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	現在グループホーム以外の高齢者の方との交流は持っていないが、地域の老人会参加のお茶会などが出来ないかと区長に申し出ている。		地域の高齢者のボランティアで紙芝居や人形劇などを行っている団体と連絡が取れているので、クリスマス会に呼び地域の人々にも声掛けをし、交流を持ちたいと思っている。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価表を全職員で検討し、改善点を職員会議で話し合い改善に取り組んでいる。又今回の自己評価は、全職員が目を通し一つ一つ記入した。		外部評価を受けることで職員が見過ごしていた改善点を知り、より良い支援を行いたいと思う。
8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度運営推進会議を実施し、二時間程度の話し合いを行っている。活動状況報告が主な会議内容である。地域の区長、婦人会の方、家族、行政職員の参加があり、意見はサービス向上にいかしている。		会議の内容は議事録として職員に知らせている。貴重な意見は職員会議で取り上げ話し合い、サービス向上に向けて活かすようにしている。
9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日常的に機会を捉え、地域や行政との話し合いに参加したり、役所に出向き指導を仰いだりして、出来るかぎり行橋市が望むサービスを常に意識したホームの介護の質の向上に取り組んでいる。		行政からの集まりの連絡があったときは、必ず出席し地域の人々との交流を図り、情報を得てサービス向上に取り組んでいる。
10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	事務や管理者が学んだことを職員会議などで職員に伝え、理解するように努めている。権利擁護や成年後見制度について掲示板に張り出し、家族に理解していただけるようにしている。日常的には、ケア会議の話し合いの中で利用者個々に検討している。		現在は活用する入居者はいないが、さらに職員会議で話し合う機会を持ちたい。又該当する利用者が入居された時は、即対応できるようにしたい。
11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員会議において、職員間の意識の周知徹底やストレス解消のための交流を図ったり日々話し合いにより虐待防止に努めている。		日々の介護の中で虐待内容などを話し合うことで、見過ごさないように努めている。今後も日々の介護の中で注意を払いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事務所において書類を見ながら、納得がいくまで説明を行っている。		(利用者)入居者や家族からの疑問点は、どの職員に尋ねても良いことを伝えており、その対応に努めている。
13	運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、不満、苦情は所定の用紙に記入し職員全員で回覧し、話し合い改善するように努めている。		利用者が職員に意見や苦情、不満を伝えやすい受容態度であるように努めたい。
14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	月に一度「つるかめ通信」を作成し、家族に郵送し暮らしぶりや健康について報告するようにしている。また家族が面会にこられた時は、日頃の様子を伝えている。		請求書とは別にイベントなどの案内や行政の連絡なども郵送している。
15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進委員会に家族の参加を求め、出席していただき、意見を述べてもらっている。意見は職員会議で報告し、よりよいケアへとつなげている。		家族が面会に来られた時は、入居者の様子を伝えるだけでなく施設に対しての意見なども聞くようにしている。
16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議に意見を出しあう時間を持っている。また会議時以外でも意見があれば、その都度管理者に伝えている。出された意見は、職員に伝え検討している。		全員職員会議に参加するようにし、前向きに意見を出し合える場としている。また管理者、職員の意見を聞く機会を多く設けるようにしていきたい。
17	柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者や家族の状況の変化、要望があれば職員は話し合いの機会を持ち、よい方向に向かうよう勤務の調整を行っている。		入居者が十分な介護を受けられるよう、時間帯の調整を行い職員配置を行なっていきたい。
18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は顔なじみの職員など配慮しながら、退職した後も不安のないよう顔を見せ話し相手になるようにしている。		職員の異動は最小限にとどめたい。イベント時は隣の施設により手伝いに来ているが、日頃の散歩時に同行しており顔馴染みになっている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援				
19	<p>人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるように配慮している。</p>	採用に辺り、性別、年齢等の理由で排除していない。働く職員に対しては、能力を発揮して生き生きと勤務しており、自己実現の権利は十分に保障されている。		人権を尊重し、今後も配慮していきたい。
20	<p>人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる。</p>	人権教育、啓発活動について、話し合いを設け、勉強会は行っているが、現在人権教育の研修などは行っていない為取り組んでいるとは言えない。		入居者に対する人権を尊重することは職員に話してはいるがなかなか十分に浸透出来ていない。
21	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	段階に応じての育成は少人数職員の為難しく、そのつど個別に主任や管理者、職員が指導に当たっている。全員に指導できることは職員会議で行なっている。		内部研修を数多く行い、介護の細部に興味を持ち、よりよいケアが出来るように計画していきたい。
22	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	京築グループホーム連絡協議会に参加している。また地域の集まりに参加し、交流を行っている。		京築グループホームの職員、利用者間にて風船バレーボール大会が行われている。参加することでスタッフ間の意見交換の場にもなっているため、今後も積極的に参加していきたい。
23	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	不安や不満は必ず管理者に相談するように管理者より申し出ている。また職員会議でも意見を述べる時間を設けている。		管理者からもスタッフにより多く声掛けを行い、話しやすい環境作りに努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	京築グループホームの職員との交流を深める場(集まり)に積極的に参加し、働く意欲などを向上させ、職員間の食事会等の楽しいつづぎの場を設けている。		今後も職員のストレス等に配慮しながらよりコミュニケーションを取っていきたい。
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
25	初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	様子観察を十分に行なうとともに、話を十分に聞く時間を持ち、信頼関係を築くように努めている。		より一層のコミュニケーションを図り、信頼関係を築く為の努力を行っていきたい。
26	初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	面会に来られたときや、電話があつて時は話を聞き受け止める努力を行っている。		より一層の受容の態度でコミュニケーションを図る努力を行う。
27	初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、本人と家族の希望、要望など話しをよく聞き、どの支援が必要なのかを見極め支援するようにしている。		本人と家族の必要としている支援を行うが、同時に他のどのサービスがよいかも考えながら支援するように努めたい。
28	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家族、本人がグループホームの見学に来られ、様子を見られたり見学時に入居者と一緒にティータイムを体験されたり機会を持ち、安心して入居していただけるように努めている。		今後も見学や体験入所などを行うようにし、不安のない入所を行えるようにしたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
29	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理を一緒に行い、料理方法を教わりながら調理したり、ゴミ箱作りを職員、入居者も含めて一緒に教わるなど時間を共有しつつ関係を築いている。		出来ることは手伝っていただき、又教えていただきながら、学んだり支えあうよい関係を築いていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	面会時など入居者を囲んで話すように努めている。又家族と外出されたときは、外出時の様子などを聞き情報を共有し、一緒に支えていく関係を築いている。		家族に入居者の生活史をうかがい、今後一緒に支えていく関係を築いていきたい。
31	本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	一ヶ月に一度つるかめ通信の便りにコメントを入れ、グループホームの生活をより身近に感じてもらえるよう努力している。		イベントの誘いの手紙などを配布し、入居者と一緒に過ごす時間を持てるような計画を実践していきたい。
32	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加したり、買物に出かけたりと外出する入居者に合わせた地域を選び、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。		家族にも話しを聞き、馴染みの場所を把握し、外出するように努めたい。
33	利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一緒に散歩したり、入浴したりと、個人との関係を持つように努めている。また同時に本人の希望により複数での散歩、仲のよい人との入浴などおこなう機会ももっている。		散歩時に、歩行不安定な入居者には車椅子を押しingいただいたり、支えあう時間を持っている。無理のない支えあいの関係を築きたいと思って支援している。
34	関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退所後、自宅にいられる方には、イベントの誘いの連絡などをおこなっている。また入院された方には職員が交代でお見舞いに行ったり家族への連絡も取り合っている。		今後も関係を断ち切らない取り組みをおこなってきたい。家族、本人との連絡は定期的におこなってきたい。
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活史を把握し、その人が懐かしみ好む暮らし方に添った生活が行えるよう努力している。		要望や意見を十分に聞き思いや意向の把握に努め、本人本位の支援をおこなえるよう努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に家族や本人に生活歴などをたずね、いままでの暮らしを把握する。		知りえた情報は記録に記入すると共に新しい情報は追加で記入していき、職員全員で把握できるよう努めている。
37	暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一日の様子を個人記録に記入すると共に、朝、夕の申し送りでも一人ひとりの現状を総合的に把握し、伝えるようにしている。		様子観察、記録記入を行ない、現状の把握をより徹底させる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアマネ、介護者、本人、家族と個々に意見を出したり、全員でケア会議を開いたりそれぞれ意見やアイデアを出しより良い介護計画を立てている。		より一層本人の意に沿うように介護計画を作成していくよう話し合いを蜜に行ないたい。
39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画が達成されたとき、次の段階の計画を立てている。変化が生じた場合はケアマネージャーに伝え、計画への見直しを行なう。		ケア会議を開く機会を多く持ちケアマネ、本人、職員、家族と一緒に場で話し合い作成したいと思っている。
40	個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録に記入すると共に、排尿、排便チェック表、入浴、バイタルチェック表など細かく記入し、全職員がいつでも見られるようし、介護計画の見直しに活かしている。		個人の様子が把握しやすい記録にし、ケアの実践が記入でき把握しやすい記録にしたいと思っている。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	買物と一緒にいき、好きなおやつを選んでいただくことや、買い物に行く過程で記憶にある道などドライブも兼ねた支援を行なっている。		外泊する方は少ないが、外泊時機能低下のため家庭では移動が困難なときは、家まで同行する支援を行なう。これからも家族、本人の要望に答えていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
42	地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	消防とは避難訓練で協力をいただいている。地域の歌の上手な歌のボランティアや、ハーモニカをふいて下さるボランティアなど来て頂いている。	今後イベント、誕生日会等でボランティアを呼びたいと思っている。他の資源の活用を行ないたいと思っている。
43	他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	入居者には他のサービス活用支援を現在は行っていないが、地域の会議では他のケアマネジャーや、サービス事業所との交流を図っている。	婦人会の茶話会や歌の会などに本施設を使用してもらうように話している。また必要に応じて他のサービスが利用できるよう交流を行なっている。
44	地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの協働が現時点では、あまり行なっておらず、準備の段階である。	地域包括センターとの連絡を密に取り始めたばかりで、今後入居者の意向や必要性に応じて権利擁護や、長期的なケアマネジメントについて協働したいと思っている。
45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	個々の利用者の以前からのかかりつけ医を優先とし、格段行きつけの病院がない人は、本施設の指定医が毎日往診している。	本施設は指定の病院から毎日往診をしてもらっているので、今後も密に連絡を持ちたい。
46	認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	本施設の指定病院からの医師は認知症に詳しく毎日の往診時相談している。認知症利用者も安心して治療を受けている。	今後も職員の看護師を通し、指定医との連絡を密に取ると同時に指定病院からの看護師と連絡を取り、日常の健康管理に努めたい。
47	看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	どんな体調の変化も職員の看護師に連絡、相談をし、看護師の判断にて指定病院の医師へ連絡を取り支援している。	今後も職員の看護師と密に連絡を取ると同時に指定病院からの看護師とも連絡を取り、日常の健康管理に努めたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
48	早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院された利用者には、面会に行き病院より情報を得ている。また電話連絡に情報を得るようにし、早期退院に向け連絡を取り合っている。		入院時には職員が面会に行き、声掛けを行なうことで安心感を持っていただく。また同時に、病院関係者と連絡を密に取り、早期退院が出来るように連携を行なっている。
49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	終末期ケアを本施設では今まで行なったことがないが、家族の要望があれば行なう準備は出来ている。重度化した場合、家族、職員、かかりつけ医と話し合いを行なっている。		かかりつけ医と十分に話し合うと共に、急変時などの対応、連絡など学ぶと共に、家族との関わりを大切に本人、家族を支援するよう努めたい。
50	重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の利用者を日々かいごしており、「できること、できないこと」を看護師、職員と話し合い、医師とも相談し、今後の変化に備え、検討中である。		「できること、できないこと」の見極めは難しく、かかりつけ医とも相談中である。今後の変化に備えて検討し、どんな準備を行えばいいか話し合い取り組んでいきたい。
51	住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	グループホームから自宅へ帰られた男性利用者がおられました。ご家族との話しを十分に聞き、困ったことがあればすぐに連絡するよう後々も連絡を取っている。		本人と家族と話し合いを十分に取り、移動後も連絡を取るよう努めたい。
<p>.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1) 一人ひとりの尊重</p>				
52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員の入居者に対する声掛けは優しくプライバシーを損ねない対応を行なっている。個人情報保護法について勉強を行なった。		個人情報保護規定を提示しサインをもらっている。今後も記録などの個人情報の取り扱いには注意を払いたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援している	トイレの声掛けも強制でなく入居者の意思と決定により支援を行なっている。入浴、就寝と生活全面に本人の意思を大切に自己決定にゆだね支援している。		今後も自己決定の意思を大切に受け止め、思いや希望が常に職員に出せるよう、受容の態度で支援していきたい。
54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	理念にも掲げているように、自分の家に居るように自分のリズムに合わせた、その人らしい普通の生活を送っていただく支援を行なっている。		一日のスケジュールは食事の時間が昼食12時、夕食18時と決められている以外は自由設定の為、一人ひとりのペースを大切によりそう介護、よりそう生活支援を行ないたい。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
55	身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	理容、美容共に、本人の望むお店に外出され行かされている入居者もおられるが、施設に出向いてカットを行なっている美容師を利用されている入居者もおられ、本人の自由申し込みで行なう。		その人らしい身だしなみやおしゃれは、朝のモーニングケア時の洋服選びから始まっていると思われる。朝の整容など自分の力でやっていけるように支援したい。
56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と一緒に食材を買いに出かけている。また一緒に食材のもやしの根取りを行ったり、調理を行い、途中で味見などを行い食べる楽しみを味わっていただいている。		献立に同じものが重ならないように心がけ、量や見た目にも気を配っている。今後も入居者の意見を取り入れたメニューにしたり、食事の準備や、片づけを一緒に行ないたい。
57	本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	入居者自身が散歩に行き、選んだおやつを翌日皆で「おいしいね、ありがとう」と声掛けをし、コーヒー、紅茶などと一緒に頂いている。		買い物に行き好きなおやつを選んで購入した品物をおやつに出したり、ショッピングに行き各自好きなものをおやつに購入したりなどの支援を行なっている。
58	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄チェック表をつけ、無理な声掛けは行わず、自分からトイレに行くように支援している。時間により声掛けが必要な入居者にはさりげない声掛け指導を行なっている。		今後もチェック表に記入することを徹底し、気持ちよく排泄していただけるよう支援していきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日は、時間帯は一応決めているが、希望により、夜間以外いつでも入浴できるとしている。また入居者同士で声を掛け合い二人で入浴されることもある。		一人ひとりのペースに合わせ、のんびり入浴を行なっている。今後も楽しんで入浴できるよう支援していきたい。
60	安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	強制しての就寝介助は行わず、入居者の様子から、就寝声掛けを行なっている。一人ひとり対応し、支援している。就寝時お経のカセットを聴かれたり、される方にはセッティングを行い、一人で眠れない入居者には添い寝を行なっている。		個人の体調に応じ、気持ちよく眠れるよう介助している。また日中の休憩はソファに座られ、座椅子に足を上げて安楽に休んでいただけるよう支援している。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活の場での行動を抑制することなく、食器洗い、調理の手伝いなど進んで行なっている。また外での草取りは気晴らしにもなっているようである。		配膳手伝い、洗濯物たたみ、調理など力に応じた役割の支援を行なっている。カラオケは入居者の気晴らしの一つとして楽しんで歌われている。
62	お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者によりお金を所持している方もおられますが、使う機会があまりもてないでいる。		使う機会があまりもてないので、お祭りや、買い物、レクリエーションでの外出を多く取り入れお金を持って使えるように支援したいと思っている。
63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	犬の散歩に同行したり、散歩に行って花を摘みたいなど希望により戸外に出かけている。買い物にも同行し、好きなおやつを選んでくださっている。		身体の中のカルシウムを作る為にも一日に一度は太陽に当たるようにしましょうと決めている。今後も続けたいと思っている。
64	普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月に一度はバスハイクを取り入れ、外へ出かける機会を持っている。行き先は入居者の希望にこたえるようにしている。		温泉に家族と共に入浴する計画など話し合っており、家族参加の行事を取り入れたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人自ら電話をいつでもかけられるようになっている。又力に応じ、支援することもある。		絵手紙を学んでいる職員があり、年賀状の作成を行い、家族、知人に出そうと計画している。
66	家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	『面会はいつでも大丈夫ですよ』と家族に伝えている。又面会者に対し、明るく挨拶するように努めている。面会中は楽しく過ごせるよう配慮している。		面会にこられた時は、笑顔で迎え、お茶を出してくつろいで談話ができるスペースを確保している。帰られるときは玄関まで、見送るようにしている。
(4)安心と安全を支える支援				
67	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	居室、ベッド上で転落の危険のある入居者は、畳の上に布団を敷き休んでいただく工夫を行い、拘束のないよう環境面の変更を行い支援している。		『介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為』を正しく理解する為に職員と一つ一つ話し合いたい。
68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	利用者の体調が悪いとき以外は開放している。		安全確保のためでも、入居者の精神的ダメージの重大性を考えて、今後も鍵をかけないケアを実践していきたい。
69	利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜間は、一時間おきに巡視を行い、安眠確認を行なっている。また日中では、入居者の所在確認を常に行ないながら支援している。		今後も見守り重視で、所在や様子を把握し、安全確認を行なっていきたい。
70	注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	預かり金や預かり品の台帳、管理は事務で行なっている。		今後も預かり金、預かり品、台帳管理は事務で行なっている。一ヶ月に一度家族に報告している。
71	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	転倒、行方不明になる恐れのある入居者など、事故防止を防ぐための見守りを重視しているが、事故防止のための知識の学びの機会がなく、研修を行っていない。		入居者の事故から、施設での火災など事故に対しての危機感を感じ取り、事故を防ぐ為の知識を学ぶ機会を増やしていきたいと思っている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	事務所に連絡網を張り出し、職員会議で事故などの対応など話し合う機会を持っている。		消防などに応急手当の訓練を受けた職員が、マニュアルなどで説明は出来るが実際に訓練を行ないたいとの希望がある。
73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防と連携を取り、避難訓練を行なっている。		今まで近くに家が建っていなかったが、近隣に住宅が増えた為、避難訓練に近隣の人々に協力を得たいと思っている。
74	リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	リスクに関しては、入居時に家族に説明を行なっている。又体調変化によりリスクが伴うときはその都度説明している。抑圧のないよう家族とも話し合っており支援している。		本人にとって抑圧感のない生活を大切にしたい対応の為、家族との話し合いを続けていきたい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
75	体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	変化に気づいたときは、看護師に報告すると共に、医療ノートに記入し、申し送りを徹底している。看護師の判断により、指定医に連絡を行い、指示を仰いでいる。		一人ひとりの体調の変化に気づき、異変の発見に努め、看護に報告すると共に情報を共有するように今後も努めたい。
76	服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	新しい薬表はファイルに閉じ、前回の薬表は個人ファイルに閉じ、職員が服薬の内容を理解し、支援できるようにしている。又医療ノートには健康面の変化を記入し、体調の変化を見逃さないようにしている。		薬の内容を理解し、投薬介助を行なうと共に副作用も理解できるよう勉強会を行ないたい。医療ノートの活用も続けたい。
77	便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	野菜類を多く摂取できる献立を工夫すると共に水分を多く取れるようお茶のキーパーを準備し、飲みたいときに自由に飲めるようにしている。またテレビのラジオ体操を行ったり、中庭を散歩するなどの運動を取り入れている。		食事に寒天やヨーグルトを取り入れ、便秘解消に役立ててはとの計画内である。また10時ティータイム時は、ヤクルトや野菜ジュースを飲むようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	モーニングケアとナイトケア、食後の口腔ケア、入れ歯のケアに注意している。		入居者の力に応じた口腔ケア介助を行っているが、拒否する入居者もおられるが声掛けを行い、全員口腔ケアを行っている。
79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養バランスの良い献立を食事担当者が考え、調理している。食べる量も個人別に少なくしたり、お代わりしたりと調節している。日中好きなときにお茶が飲めるようキーパーを準備している。		体調に応じた調理、食材を心がけ、個人に応じた対応が出来るよう一人ひとりの状態の把握に努めたい。
80	感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを作成し、全職員で、予防に取り組んでいる。		看護職員による内部研修を行い、マニュアルを再確認を行い、予防の徹底に努めたい。
81	食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	夜勤者がまな板やだいふきなどを漂白しており除菌に努めている。又食器は、乾燥機にいれ高温殺菌を行なっている。職員が週二回買い物に行っている。行く前には冷蔵庫の食材管理も行なっている。		特に生ものの食材は、加熱するように心がけた調理方法を行なっている。今後も衛生管理や食材の使用管理に努め食中毒予防に努めたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
82	安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関ドアは雨の日以外は開放している。玄関前には緑の木や、花、椅子を設置し、家庭的な温かさをいつも出すようにしている。		今以上に多くのグリーンや、花のスペースを作って入居者と一緒に季節の花を植えていきたい。近隣の方が花を見るために立ち寄って下さる外観にしたい。
83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テーブルの上には利用者が散歩の途中で摘んでこられた花がいけてある。光はブラインドで細かい調節を行なっている。田んぼの中なので、不快な音はない。		廊下が長いので、季節の花や緑を飾って季節感を出している。又今までのカレンダーや、写真を張り出し昔を思い出していただけような環境にしている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
84	共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアには、ソファでくつろいだり、畳のスペースでは座り込んで、折り紙をするなど、カレンダー作りを好きな方が行っているスペースとしている。また廊下にはチェスト、椅子が設けられ、一人でボーっとする空間である。		テレビの前のソファに並んで座り、反対側の畳に座り、談話される姿が見られる。ソファの並びを工夫したり、ゆったり座って過ごせるスペースを確保したいと思っている。
85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者にベッド、布団など好みの寝具をお聞きすると共に自宅にあるものを持ち込んでほしいと伝えるが、あまり持参されていないのが現状である。		収納庫がない入居者が多く、家族に連絡を取り、自宅の品物を持ってきていただくよう話そうと思っている。
86	換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一日一度は入居者の居室の窓を開放し、換気を行っている。室内の温度調節は入居者の体調を考え、こまめに行っている。		24時間換気は各居室に設置し可動している。フロアには脱臭機能のあるカニファ水を噴霧している。冬期になるので温度調節はこまめに行なっていきたい。
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
87	身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、ベッドなど個人に適應できるように話し合っ対応している。ベッドが危険な入居者には、畳を使用し、布団を敷いたり、マットレスを利用したりと入居者の状態に合わせて支援している。		手すりを各所に設置し独歩を促している。また脱衣室には、横と縦の手すりを設置し、立位や移動が行いやすいようにと、取り組んでいる。
88	わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	居室入り口には名札や暖簾をかけ、個々の居室がわかりやすいように工夫している。また生活リハビリも兼ね、配膳、台ふき、後片付けの手伝いをしていただけるようオープンになっている。		家事手伝いは、進んで行なってくださる。楽しんで手伝っていただけるよう支援していきたい。
89	建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	玄関前に椅子を設置し、外の風に触れたり、空を眺めたり他の入居者と談話するスペースがある。また中庭には畑を作っており、全員で芋ほりの計画である。また犬も飼っており、エサを上げたり散歩にいたりストレス発散にもなっている。		建物の周りに空間スペースがあるので野菜作りや花作りを行い、中庭は日陰がないので、大きな木に成長する樹木を植えたいと思っている。

グループホーム つるとかめ

. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の	
		利用者の2/3くらいの	
		利用者の1/3くらいの	
		ほとんど掴んでいない	
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある	
		数日に1回程度ある	
		たまにある	
		ほとんどない	
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と	
		家族の2/3くらいと	
		家族の1/3くらいと	
		ほとんどできていない	

グループホーム つるとかめ

項 目		最も近い選択肢の左欄に をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように	
		数日に1回程度	
		たまに	
		ほとんどない	
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている	
		少しずつ増えている	
		あまり増えていない	
		全くいない	
100	職員は、生き生きと働いている	ほぼ全ての職員が	
		職員の2/3くらいが	
		職員の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が	
		利用者の2/3くらいが	
		利用者の1/3くらいが	
		ほとんどいない	
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が	
		家族等の2/3くらいが	
		家族等の1/3くらいが	
		ほとんどできていない	

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

・理念にも掲げてありますが、利用者の方々が充実した生活で生き生きと暮らしていけるよう、一人一人の個性・願いを聞き入れて把握し、ゆっくり、寄り添う支援をしていきたいと思っています。・施設の中が生活の場になっている入居者にとって、職員が社会の架け橋となっている事を頭に入れ、明るく元気に声をかけ、生きる意欲を持って頂き、笑顔の多い個人個人になればと願っています。・職員自身も「こういう施設に入りたい」と熱望できる、安心して落ち着ける場所、つまり幸せを痛感することができる施設を目指して頑張っています。